福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会【第２回会議】　議事録

1　日　時　　令和元年５月２９日（水）　　１３：３０～１５：３０

2　場　所　　福島市役所４階庁議室

3　出席者　　佐藤 滋 委員長、本杉 省三 副委員長、西田 奈保子 委員、門田 敦嗣 委員、
㊏中村 芳朗 委員、三瓶 章 委員、後藤 忠久 委員、吉田 秀政 委員、大関 宏之 委員、
竹田 有理 委員、齋藤 美佐 委員、山崎 由美 委員、㊏小林 静香 委員

4　内　容
（１）開会
（２）議事
①　第１回委員会の振り返りについて
②　施設コンセプト（案）、基本的な方向性（案）について他
（３）その他
（４）閉会

5　概　要　　議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6　委員の主な発言

〇委　員　活動のイメージを委員会で共有化できるとよいと思う。施設コンセプト（案）について、まちに賑わいを生み出すためには、まち全体がそれぞれの役割を担うことで、回遊性を生み出すと思う。また、建物内で賑わいを終わらせるのではなく、まち全体に広げることが必要。もうひとつとして、現状分析をもとに計画を立案することも必要だが、未来像を踏まえた形で計画を立案することが重要である。あらゆる面で発展していくことは難しいので、何を軸にしてまちをつくっていくのか、また、市民活動を発展させていくのかが重要だと思う。市民活動は、市民の文化的活動ととらえているが、仙台市で検討している音楽ホールでは、音楽や文化が日常生活にとって重要な意味があるということを基軸としている。生活の中に文化があり、それによってより豊かな生活につながるという考え方。どのような文化的な活動をしていくのかが、施設の内容に関連してくる。その意味では、創造・創作という視点が欠けていると思う。例えば、活動の成果として発表会が行われると思うが、そのためには毎日の練習など、創造に向かった日常的な活動があり、これが「創造・創作」の重要な活動の一部であるため、この視点はもつべきである。

〇委　員　大ホールや展示ホールで今後どの程度の規模や内容の催しを開催しようとしているのかが不明である。医学系の学会では、大ホールは最低1,500席程度必要であるし、仙台国際センターで毎年展示会を開催しているが、3,000㎡を全て利用しているので、現状の規模では中途半端な印象である。11,000㎡の制限の中では、どちらに重きを置くのかという議論が想定される。また、効率を上げるために大ホールと展示ホールを兼ねることも考えられるが、例えば富山市では椅子が立派で講演会等においても非常に使いやすい印象である。学術大会では、スクリーンを２面利用していることが多く、後席でも見易いようにある程度段差が必要である。盛岡駅前のコンベンション施設は2か所あるが、それぞれコンセプトを持っているように感じる。中途半端なものではなく、何かひとつの価値を高めていく必要があると思う。

〇事務局　おっしゃるように、コンセプトを設定するということは重要だと考えている。本事業では、駅前立地や再開発事業との連携という特徴を活かしていきたいと考えている。ただし、現時点で考え方が固まっていない状況であり、本日の検討委員会でのご意見を踏まえ、追加調査によって、次回の委員会で考え方を示していきたい。

○委　員　11,000㎡というのは再開発事業との兼ね合いでの制約という認識である。規模も大事だが、福島市の戦略的な施設として、再開発と合わせて駅前に整備するということだと思う。コンベンション施設だけでにぎわいを持たせるのではなく、他の施設との連携でまちのにぎわいを創出すればよい。コンベンション施設は、365日は使わない施設なので、日常的に人が通っていく、あるいは市民活動を活発に行うことが必要。現在、まちなかでは活発にイベントが開催されているため、駅前通りのリニューアルと連携した取り組みによる相乗効果を期待したい。

○委　員　市内の主要施設において、どの施設でどのくらいのイベントを開催しているのかを知りたい。公会堂の代替をビルドインするイメージであった。また、国立大学法人が立地する自治体と立地しない自治体における東北地方での開催件数の差や、３案の施設パターン毎に、何人程度のポスターセッションを開催できるのか知りたい。

○事務局　調査先に開催されている催事全てを開示できないと言われているため、件数は全数ではないこと、複数日にわたる会議であっても1件でカウントされていることをご了承いただきたい。市公会堂では、平成24年4月から平成27年9月までで201件（内訳は会議等40%、鑑賞型イベント60%）の開催。国立大学法人のある他都市として、仙台国際センターの平成29年度の来場者数は約35万人である。ポスターセッションの質問については、次回に回答することとしたい。

○委　員　東北大学は、交付金を多く受けている国立大学法人であるため、仙台での学会開催数は別格である。秋田・盛岡・青森等の現実的な実績を参考にするほうがよい。ポスターセッションについては、トラックで横付けできないと不便である。作っても使われない施設とならないために、運用のイメージをもって検討するほうがよい。

○委　員　日常的な市民活動という視点が重要と感じた。公共財のため、普段利用できないような人たちも活用できる社会包摂的な施設であるべきと考えている。また、少子高齢化社会を踏まえた検討が必要。大ホールの機能と規模については、損益分岐点として1,500席程度という根拠が明確なものなのか、席数が多いからといって目指す役割を果たせるかは、現実的には疑問である。展示ホールは日常的に市民が活用できるのであれば、賑わいが創出されると思われる。使いやすさを考えた場合、展示ホールを上階に設定するのは好ましいのかどうか、検討が必要ではないか。

○委　員　ホールの採算性を確保することが必要であり、そのためには大ホールにプロ興行等の大型イベントを誘致できる規模にしないと、利用頻度が上がらないのではないか。郡山のビッグパレットや仙台と比べて、駅前立地の強みはあると思う。施設整備だけでなく、コンベンションビューローのようなバックアップも重要だと思う。また、郡山市に誘致合戦で負ける理由としては、ホテルがないということが大きいので、宿泊機能やバンケットを含めて一体的に考えていただきたい。

○委　員　市として何をしたいのかがベースであり、コンセプトが重要である。中途半端なものにならないよう、駅前立地を最大限に活かせる構成を検討すべきと考える。供給型の視点ではなく、需要のほうから考えることが重要。また、資料の8ページの３つのコンセプトはどれも重要。まちのにぎわいに貢献することや再開発施設との一体性を考えて、両施設の動線を考慮することが必要。例えば、アオーレ長岡のように、アクセスをオープンにすることで外から入りやすい仕組みになっている点は参考になるのではないか。再開発側とも協議し、再開発としてもメリットがあるように掘り下げて検討してほしい。

○委　員　福島駅前でコンベンションや会議場の機能を担ってきたのは辰巳屋なので、辰巳屋における現状を把握する必要がある。周辺道路から設備等をどのように搬入するか検討が必要。まちへの開かれ方が福島市とは違う他市事例はあまり参考にならない。20～30年後を考え、郡山市や仙台市と同じような施設を目指す必要はない。全部を取り入れる必要があるのか、

考えなければならない。

○委　員　施設コンセプトは原案の３つの柱でよいと思う。アオーレ長岡は非常に良い施設と感じた。例えば、広場で市民の方が様々な活動を行っており、市の元気を来訪者に知ってもらえる、見せることができる施設だと感じた。コンサートは、規模としては2,000席以上でないと誘致しにくいが、前泊や連泊する人が多く経済効果は大きいので、駅前でコンサートを開催できるというのは強みである。

○委　員　どのような規模のものを開催できるかは、マーケティングによる。大都市と同じようなマーケティングの考え方では、大きなホールがあっても人が来ることにはならない。地域の実情を踏まえた検討が必要。

○委員長　整備したから使われるわけではないので、どう使うか、市民の方の利用としてどのくらいのポテンシャルがあるかが重要。

○委　員　市民としては使うという使命もあると思う。前回委員会資料で、強みとして学術的なところが挙げられていたため、生涯学習の場として日常的に利用できるようにするとよいのではないか。公共的な催しも想定されるが、毎日は開催できないだろう。にぎわいが広がっていくイメージをもてるとよい。

○委　員　東北絆まつりでは、駅からいらっしゃる方も大勢いるが、以前の六魂祭のときも行列がたくさんできてしまい、行き場のない雰囲気になってしまった。なので、広場（平場）など、お金を消費しなくても過ごせる空間や、風通しのよい施設が必要。

○委　員　松本市では、サイトウ・キネン・フェス（現在、セイジ・オザワ 松本フェスティバル）というイベントがあるが、ボランティア活動が盛んである。また、著名な演出家が監督を務め、歌舞伎を開催している。いずれの催事も、ホールだけではなく、まちと関連した展開を図っている。例えば、まちなかをパレードして、体育館で大合唱や演奏したりしている。歌舞伎の役者がまちなかを行列し、そのときの出店では地域通貨を使えたりする。また、役者は、公演前は一定期間練習するため、１週間程度滞在し、まちの人との関わりを持っている。人と人とのつながりが重要であり、どういう運営をしていくかを定めることが重要。また、能登演劇堂では、著名な俳優の劇団員が合宿生活をはじめ、演劇に特化したホールができた。まちの人が俳優らと触れ合うことで、文化活動が広がっていく。コンベンション中心となると、このようなことは難しいのかもしれないが、長期的な視点で考えるべき。大事なのは、回数を多く行うことだと思っている。同じ収入でも、回数が多く、かつ収支が成り立つ施設にしてほしい。

○委　員　人口減少に伴う福島の将来や、稼働率が低い公共施設を踏まえた効率的な施設運営が前提であったはず。未来にどのような施設を持つべきかを考える必要がある。例えばコンサートはあったらいいなとは思うが、はやり、市民一人一人が福島を誇りに思うまちにできるようにしたい。コミュニティ拠点や、ユニバーサルデザインの観点など、どこに力をいれていくのか今後検討してほしい。

○委　員　高校生や大学生の意見を聞く場を市として設けるべきではないか。また、特に震災後、NPO等の活動が活発になっている。そういった人たちが、演劇やコンサートをしたいと思える施設や、福島から情報発信できる場が必要かもしれない。

○委　員　福島駅東口再開発事業に関連し、高校生から30代までの若者を対象としたグループワークを開催したことがあり、その際に若者ならではの意見が多く出た。そのような人たちの意見はぜひ大事にしてほしい。

○委　員　ソフト面が非常に大切であるが、まずはターゲットと規模を決めることが必要。さきほど話題に上がった祭の混雑については、地下道が通れなかったので道路渋滞が起きたと思っている。このあたりも考えたまちづくりが必要。また、アオーレ長岡は、オープンな造りのため人は集まるが、施設の稼働率はそれほど高くはない。

○委　員　施設自体に人を集める機能があるというよりも、人に集まってもらえるような企画をどうつくっていくのかが必要なのではないか。可児市はソフト面の対策がされており、成功していると思う。

○委　員　可児市は、最寄駅から徒歩10分である。交通利便性をどう捉えるかも大事。

○委　員　再開発ビルのオープン時期を踏まえて議論を行うことが必要。

○事務局　再開発事業については、今後の設計等の進捗により変更の可能性もあるが、現時点では、施設は令和5年度に竣工予定とのことである。

○委員長　いろいろな意見をいただいたが、それらの意見を少しずつ採用するような計画にはしてほしくない。ソフトのイメージ・市民活動のイメージを持ったうえで、ターゲットや運営イメージを明確にした資料を提示していただきたい。メリットとデメリットも含めて、事務局案を提示いただくようにしたいが、いかがか。

○委員一同　了承。